

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **41** 号

平成14年4・5・6月



国宝 不空羼索観音立像宝冠 東大寺蔵

特別展

大仏開眼1250年

東大寺のすべて

4月20日(土)～7月7日(日)

東西新館・本館

平常展

仏教美術の名品

本館:2月8日(金)～4月14日(日)

西新館:1月4日(金)～4月7日(日)

大仏開眼1250年

東大寺のすべて

◆四月二〇日(土)―七月七日(日) ◆東西新館・本館

日本仏教の壮大な殿堂ともいべき奈良・東大寺は、二〇〇二年に大仏開眼二五〇年を迎えます。これを記念して、同寺などの所蔵する国宝・重要文化財を初めとする仏教美術の名宝を公開する大規模な展覧会です。

東大寺の大仏(盧舎那仏)は、聖武天皇の発願によって国家の総力を挙げて造られ、天平勝宝四年(七五二)に盛大な開眼法要が営まれました。東大寺では、天平時代の技術の粋を凝らした仏教美術品が数多く作られ、天平文化の一大中心となりました。

その後、東大寺は二度の兵火に遭いましたが、その度に再建され、幾多の時代を超えて、数多くの仏像彫刻や絵画・書跡・工芸品などが守られてきました。そのため、東大寺は仏教美術の宝庫ともなっており、国宝・重要文化財に指定されているものだけでも二五〇件約三万三千点に達します。今回の記念展では、目ざと目に触れるこ

との少ない秘宝の「国宝 僧形八幡神坐像」

「国宝 重源上人坐像」、天平塑像の最高傑作といわれる戒壇堂の「国宝 四天王像」、法華堂の「国宝 日光・月光菩薩立像」などきわめて貴重な寺宝が出品されるのをはじめ、国内外に流出した名宝の数々も里帰りします。出陳される宝物の総件数は二〇〇を越え、うち半数以上が国宝・重要文化財に指定されています。

なお、奈良国立博物館での展覧会にあわせて、東大寺法華堂では秘仏「国宝 執金剛神立像」の特別公開も行われます。まさに「東大寺のすべて」のタイトルにふさわしい内容であり、お越しの皆さんにも十二分に御堪能いただけるものと思います。

是非、この機会に「東大寺のすべて」を御観覧ください。

〈主な出陳品〉

- 塑造日光・月光菩薩立像、●塑造四天王立像、●不空羼索観音立像宝冠、●銅造誕生釈迦仏立像及び灌仏盤、●東大寺金堂鎮壇具、●木造良弁僧正坐像、●木造重源上人坐像、●木造僧形八幡神坐像、●絹本着色俱舍曼荼羅図、●紙本着色華嚴五十五所繪卷、●葡萄唐草文染草、●花鳥彩絵油色箱、●八角燈籠火袋羽目板、●南大門仁王像像内納入品、●東大寺文書(以上いずれも東大寺蔵)など



国宝 塑造日光菩薩立像 奈良時代 東大寺蔵



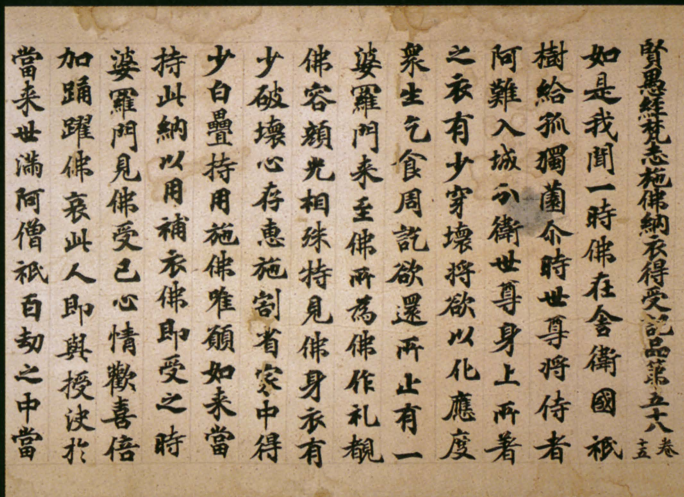
国宝 金銅八角燈籠火袋羽目板 奈良時代 東大寺蔵



国宝 俱舍曼荼羅(部分) 平安時代 東大寺蔵



国宝 塑造 四天王立像（広目天） 奈良時代 東大寺蔵



国宝 賢愚經卷第十五（大聖武）（部分） 奈良時代 東大寺蔵

平常展

仏教美術の名品

本館 2月8日（金）～4月14日（日）

西新館 1月4日（金）～4月7日（日）

西新館では、仏教美術の名品を絵画・書跡・工芸のジャンル別に展示します。また各分野では、随時、特集展示も行っています。本館では、4月14日までは彫刻・考古の諸作品を陳列します。本館は、4月20日より東大寺展の会場となりますが、本館のみ見学希望の方は、平常展料金で入館ができます。



国宝 辟邪絵（神虫）（部分） 当館蔵



国宝 塑造 月光菩薩立像 奈良時代 東大寺蔵

展 示 評

外からみる奈良博



展示会中のエントランス付近

神社について、なにかご存知ですか？

「手向山八幡宮と手搔会」を観て――

まだ春浅い一日、奈良国立博物館に出かけた。暖かい陽射しのせいか、奈良公園には、鹿が多くたわむれ、その中に、角を突き合わせようとしたが、切られた角では組み合えず、離れて行く若い牡鹿たちがいた。その所在なさそうな姿に、思わず笑いを誘われながら、ふと思った。なぜ、奈良に鹿がいるのか、そのわけを知っている人は、この公園の中にどのくらいいるのだろうか。奈良のシンボルとして、鹿は定着しているが、あそこで鹿と記念写真を取り合っているカップルに「どうして、奈良には鹿がいるのですか？」と聞いたたら、果たして、答えてくれるだろうか。「鹿は春日大社のお使いだから」と。

私達の日常生活にあまりに密着しているためか、かえって神社について一般に知られていないことが多々ある。今回の展示のテーマである手向山八幡宮もその一つであろう。東大寺大仏造立のため、九州の宇佐八幡宮から東大寺へと、聖武天皇によって勧請された手向山八幡宮はきわめて格式の高い神社である。宇佐八幡宮からの勧請は、当時としてはまさに国家的大事業であり、『統日本紀』にも記載されている事項として知られている。また、その勧請時の影向の様が再現された手搔会は、勅祭として高い位置付けにおかれ、必要に応じ上皇の院宣が発せられるほどの南都最大の大祭礼であった。

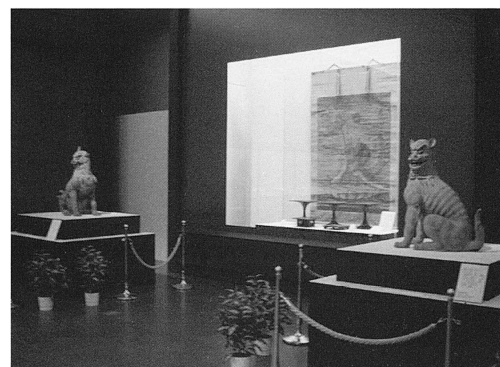
今回の展示ではこの祭礼が復元され、また、直接その神事に携わってこられた権官司の上司延禮氏による講演会も行われた。“余りお話する機会がないので”とおっしゃりながらであったが、氏の熱意が感じられる好感もてる講演であり、聴講者も多く、最後の質疑応答も活発に行われた。散会後も数人の方が引き続き質疑に残られ、やはり神社の様々な事にたいして、日頃不思議に思っていた人が多くこうした機会を利用するのだろうと感じられた。今回のような催しによって神社、ひいては神道美術への関心が高まればと願っている。

展示会場では写真パネルも利用して、祭礼の雰囲気を感じ出した展示となっていた。会場入口に据えられた神輿(重要文化財)は、背後に八

重富滋子 (大阪市立東洋陶磁美術館学芸課)

本の鉦を従え、威容を正し祭礼の華やかさがしのばれた。しかし、その中にも王朝文化の雅やかさが感じられたのは、作品自体の優雅さといま一つ、ゆったりとした展示構成も一因であったと思われる。狛犬を八幡神画像のケース前に展示し植栽を配するなど、少し間違えれば過度になりがちな情景が抑えられ、しかも空間に潤いを与えていた。その会場に着物姿の婦人がおられたが、その佇まいはそばにいる私に、しつとりとした落ち着きを感じさせてくれた。

奈良国立博物館では、昨年の正倉院展の折、着付けをサービスし、着物で正倉院御物を見ようといった企画を実施した。女性の身としては興味があり、反響やいかにと伺っていたが、他日正倉院展を拝見に来館した時、月曜日でなかったにも関わらず、多くの着物姿を目にすることができた。その折には、さほどに感じなかったが、こうして、ゆったりとした空間で静かに歩を進める姿は、その場に穏やかな和らぎを与えるものだった。美術を観賞する空間として最上のものを提供されたように感じ、深い満足感をおぼえながら、館を後にした。



陳列風景



国宝 木造 重源上人坐像 鎌倉時代 東大寺蔵



国宝 花鳥彩絵油色箱 奈良時代 東大寺蔵



国宝 華嚴五十五所絵巻（部分） 平安時代 東大寺蔵

特別展

「大仏開眼一二五〇年

東大寺のすべて」

東西新館・本館

I 奈良時代の東大寺（東新館）

東大寺縁起、○東大寺縁起絵巻（4／20／5／26）、東大寺縁起絵巻（5／28／7／7）、東大寺山堺四至図、○阿弥陀院悔過料資財帳（4／20／5／26）、○東大寺奴婢見來帳（5／28／7／7）、○越前国田使解（以上東大寺）、○写経所請経文（4／20／5／19）（静岡県立美術館）、○東大寺開田図（越中国礪波郡石粟村官施入田図、越中国射水郡鹿田村墾田図案（1幅ずつ半期）（当館）、Z聖武天皇勅書（5／28／7／7）（平田寺）、○紫紙金字金光明最勝王經（卷第六・十）（当館）、○觀世音菩薩受記經（聖武天皇勅願經（4／20／5／26）（根津美術館）、○日光菩薩立像及び月光菩薩立像（4／20／6／2）（東大寺）、○四天王立像（持国天像・增長天像・広目天像・多聞天像）（6／4／7／7）（東大寺）、○不空羼索觀音立像宝冠、不空羼索觀音像立宝冠殘欠、法華堂天蓋光心鏡（海獸葡萄鏡・飛天十二支円鏡、天衣片、蓮華、宝相華、○西大門勅額、○誕生釈迦立像及び灌仏盤、○菩薩半跏像、釈迦如来坐像及び多宝如来坐像、○葡萄唐草文染草（5／14／5／26）、○花鳥彩絵油色箱（5／28／6／16）、○銅鉢、○黒漆鼓胴（6／18／7／7）、○金銅八角燈籠火袋羽目板、○伎楽面（獅子児・治道・迦楼羅・毘睺・力士・太孤父・醉胡王・醉胡徒（以上東大寺）、釈迦靈鷲山說法図（法華堂根本曼荼羅（4／20／5／19）（ポスト・美術館、○信貴山縁起絵（尼公卷（4／20／5／19）（朝護孫子寺）、不空羼索觀音二神将像（5／21／7／7）（大英博物館）、○賢愚經（卷第十五）（大聖武、○弥沙塞羯磨本（4／20／5／26）、○瑜伽師地論（卷第十二）（4／20／5／12）、○大毗婆沙論（卷第二十三）威德陀羅尼經（5

14／5／26）、○細字金光明最勝王經（5／28／7／7）、○百法頭幽抄（卷第一末（5／28／7／7）（以上東大寺）、賢劫經（卷第六（6／18／7／7）、深密解脱經（卷第二（5／28／6／16）、瑜伽師地論（卷第七十二）（4／20／5／12）、大乘悲芬陀利經（卷第三）（5／14／5／26）、布作面（4／20／5／12）、布作面（6／18／7／7）、紅赤布（4／20／5／26）、赤地錦緑地錦等幡殘欠（4／20／5／12）、紫・緑地狩猟文錦（6／18／7／7）、夾纈羅幡（5／28／6／16）（以上正倉院、天平裂（緑地花鳥文錦・赤地唐花文錦・霞地唐花文錦幡頭・赤地花樹飛鳥文縹緗・浅緑地草花文縹緗・白茶地花文縹緗・四ツ目菱入菱繁文紅羅（うち3点は（5／14／5／26）、4点は（5／28／6／16）（東大寺）

II 盧舍那仏と華嚴の世界（西新館南側東端室）

盧舍那仏像（5／28／7／7）（ヘルリン・インド美術館）、盧舍那仏立像（ギメ美術館、毘盧遮那仏坐像（サンフランシスコ・アジア美術館）、毘盧遮那仏立像（東京国立博物館、毘盧遮那仏坐像（山口・国分寺）、華嚴経七処九会変相図（4／20／5／26）（ギメ美術館、○華嚴経（卷第一）（5／14／6／16）、○紺紙銀字華嚴経（二月堂焼経（4／20／5／12）、○純華嚴略経疏刊定記（6／18／7／7）、○高麗版華嚴経随疏演義鈔（5／14／6／16）（以上東大寺）、華嚴経（卷第六）（4／20／5／12）、華嚴経（卷第十二）（6／18／7／7）（以上正倉院）、○華嚴五十五所絵（休捨優婆夷・勝婆羅門・大天神（4／20／5／19）（觀自在菩薩・安住地神・婆珊婆演底主夜神（5／21／6／23）（大願精進力救護一切衆生夜神・遍友童子師・堅固解脱長者（6／4／7／7）（尊者不詳（6／25／7／7）（東大寺）、○華嚴五十五所絵（守護一切城增長威力主夜神・開敷一切樹華夜神（4／20／5／6）（釈種女瞿波・仏母摩耶夫人（5／8／

5／19）（賢勝優婆夷・妙月長者（5／21／6／2）（根津美術館）、○華嚴五十五所絵（文殊師利菩薩、弥勒菩薩（6／25／7／7）（藤田美術館）、○華嚴五十五所絵（不動優婆夷（4／20／6／2）（当館）、○華嚴五十五所絵卷（5／27卷替）（東大寺）、○華嚴五十五所絵卷（4／20／5／6）（藤田美術館）、○華嚴五十五所絵卷（5／8／5／19）（個人）、○華嚴五十五所絵卷（5／21／6／2）（個人）、○華嚴五十五所絵卷（5／27卷替）（以上東京国立博物館、○華嚴海会善知識曼荼羅（4／20／5／26）、華嚴海会善知識曼荼羅（5／28／7／7）（以上東大寺）、華嚴海会善知識曼荼羅（4／20／5／19）（園城寺）、華嚴海会善知識曼荼羅（5／21／6／16）（久米田寺）、○華嚴海会諸聖衆曼荼羅（6／18／7／7）（高山寺）

III 鎌倉再建（西新館南陳列室）

○内侍宣（4／20／5／26）、○官宣旨（5／28／7／7）、○円融法皇御受戒記（4／20／5／26）、○東大寺統要録、○源頼朝書狀（4／20／5／26）、○紺紙金字華嚴経（5／28／7／7）（以上東大寺）、東大寺大仏殿図（4／20／5／26）（醍醐寺）、○金剛力士立像像内納入品・吽形像納入品・宝篋印陀羅尼經・法華経觀世音菩薩普門品断簡・仁王般若経護國品・不空羼索神呪心經・不空羼索神呪心經断簡、あま心如願文・類阿弥陀仏願文・結縁交名・地藏菩薩印仏（阿形像納入品・宝篋印陀羅尼經・結縁交名・如来面相部・菩薩頭部・如来立像・地藏菩薩立像・如来坐像・比丘形頭部・飛天（東大寺）、○靈山変相図（釈迦如来立像像内納入品のうち（4／20／5／26）（清凉寺）、○四天王立像（持国天像・增長天像（4／20／5／26）（広目天像・多聞天像（5／28／7／7）（金剛峯寺）、○伎楽面（治道・獅子児、○舞楽面（皇仁庭・散手・貴徳・陵王・納言利）、○重源上

人坐像（5／21／6／30）（以上東大寺）、○重源上人坐像（4／20／5／19）（阿弥陀寺）、○鉦鼓、自然木脇息、自然木杖（以上東大寺）、○梵鐘（笠置寺）、○重源上人勸進狀（5／28／7／7）、○周防国阿弥陀寺領田畠注文（4／20／5／12）（以上東大寺）、○南無阿弥陀仏作善集（5／14／5／26）（東京大学史料編纂所）、○法華経（卷第八）（運慶願經（4／20／5／26）（個人）、東大寺学侶連署起請（5／28／7／7）（東大寺）、○鉄宝塔（4／20／6／2）、○水晶三角五輪塔（4／20／6／2）、○東大寺鉄槌印（5／14／5／26）（以上阿弥陀寺）、○鰐口（6／4／7／7）、○地藏菩薩立像、○阿弥陀如来立像、○弥勒菩薩立像、○唐墨筆献上狀（4／20／5／19）、○行勇書狀（4／20／5／19）、○四天王立像、○調伏異朝怨敵抄（4／20／5／19）（以上東大寺）

IV 江戸再建（西新館南陳列室）

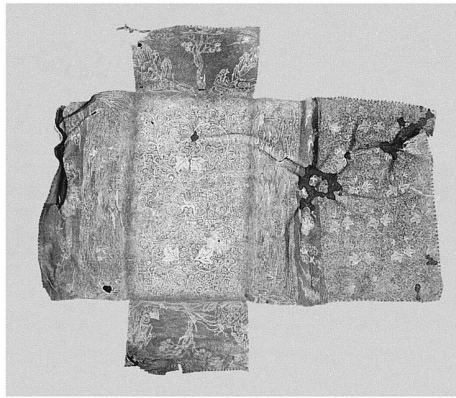
○二月堂修中練行衆日記（卷第七）（4／20／5／19）、○足利義持経巻施入状（4／20／5／19）、大仏螺髪、○公慶上人坐像（5／21／7／7）、自然木杖、大仏修復勸進帳（4／20／5／26）、○公慶上人借用状（5／28／7／7）、○公慶上人年譜（5／28／7／7）、○公慶上人書狀（5／28／7／7）、六字名号懸額、工匠具・曲尺、○大仏殿棟札（金堂附）、大仏開眼・大仏殿落慶法要供養圖、大仏殿虹梁木曳図、寺中寺外惣絵図（以上東大寺）

V 四聖・祖師・教学（西新館北陳列室）

○四聖御影（建長本（4／20／5／26）、○四聖御影（永和本（5／28／7／7）（以上東大寺）、○行基菩薩坐像（6／11／7／7）（唐招提寺）、行基墓誌（当館、大僧正舍利瓶記（4／20／5／26）（唐招提寺）、○行基菩薩行狀絵伝（1幅ずつ3期）（家原寺、三寶絵断簡（5／28／7／7）（当館）、○良弁僧正坐像（4／20／6／9）、良弁僧



国宝 木造 僧形八幡神坐像 東大寺蔵



国宝 葡萄唐草文染帷 東大寺蔵



国宝 銅造 誕生釈迦仏立像、灌仏盤 奈良時代 東大寺蔵

正像(6/11/7/7)、風字硯(以上東大寺)・○先徳図像(5/28/7/7)(東京国立博物館)・●金銅透彫舍利容器(西大寺)・金銅火焰宝珠形舍利容器(東大寺)・○聖皇受茶羅(5/28/7/7)・法隆寺、聖武天皇像(4/20/5/26)・○日本高僧伝要文抄(4/20/5/26)・○鑑真和尚上坐像(4/20/5/26)・鑑真和尚上像(5/28/7/7)・実忠和尚上像・○東大寺要録(以上東大寺)・○錢納帳(4/20/5/26)(個人)・弘法大師坐像、弘法大師像(真言八祖像のうち)(5/28/7/7)・聖宝僧正坐像(以上東大寺)・○東南院院主房起請(5/28/7/7)・醍醐寺、○五獅子如意、円照上人像(4/20/5/26)・○円照上人行状記(4/20/5/26)・凝然上人像(5/28/7/7)・○梵網戒本疏日珠鈔・卷第四(5/28/7/7)・○喬然・義藏手印結縁状(釈迦如来立像像内納入品のうち)(4/20/5/26)・○清涼寺、弘贊法華伝(5/28/6/16)・○永観請文(5/28/7/7)・○弥勒如来感心抄(第五)(4/20/5/26)・○安養知足相对抄(宗性・弥勒如来感心抄第二のうち)(4/20/5/26)・○決定往生集(5/28/7/7)(宝寿院)・○俱舍曼荼羅(4/20/5/26)・○浄影大師像(4/20/5/26)・○嘉祥大師像(5/28/7/7)・○法華統略(卷上)(6/18/7/7)・杜順大師像(4/20/5/26)・○至相大師像(5/28/7/7)・○香象大師像(4/20/5/26)・清涼大師像(5/28/7/7)・圭峯大師像(4/20/5/26)・杜順禪師香象大師名号(明恵筆)(4/20/5/26)・尊勝院印・華嚴供印・○華嚴祖師伝、戒壇院定置、○戒壇院指図、南山大師及び大智律師像(1幅ずつ各半期)(以上東大寺)

Ⅵ 東大寺の年中行事(西新館北陳列室)

●東大寺年中行事、○金銅鉢、○香水杓、○堂司鈴、○二月堂練行衆盤、二月堂修中過去帳、二月堂縁起絵巻、十一面観音像

(4/20/6/9)・牛王宝贖版木及び朱宝印、尊勝陀羅尼版木・○僧形八幡神坐像(6/11/7/7)・八幡縁起絵巻(以上東大寺)・○唐鞍(4/20/6/9)・手向山八幡宮、木製柄香炉

Ⅶ 東大寺の考古学(本館北側)

知識寺出土品(個人、大阪、柏原市立歴史資料館)・大野寺土塔出土品(大阪、堺市立埋蔵文化財センター)・恭仁宮出土品(京都府教育庁)・宮町遺跡(紫雲寺)出土品、甲賀寺出土品(以上滋賀、信楽町教育委員会)・難波宮出土品(大阪市文化財協会)・丸山西遺跡出土品(東大寺)・食堂北方付近出土品(奈良・橿原考古学研究所、天地位出土品、法華堂屋根瓦、法華堂付近出土品、二月堂付近出土品(以上東大寺)・各地国分寺出土品(当館)・○続日本紀・金沢文庫本(名古屋市)・砂金(宮城・黄金沢採取(宮城・涌谷町教育委員会、黄金山産金遺跡出土品(個人、長登銅山出土品(山口・美東町教育委員会)・○東大寺金堂鎮壇具(東大寺)・東大寺大仏蓮弁図・描き起し図(当館、東大寺創建瓦、大仏殿地区出土品、講堂出土瓦、戒壇院地区出土品、東塔院出土金銅風鐸残欠、西塔院地区出土品、南大門付近出土品、三月堂「東大」銘屋根瓦、二月堂周辺出土品(以上東大寺)・食堂北方付近出土品(奈良・橿原考古学研究所)・正倉院出土品(当館)・香山堂出土品(奈良文化財研究所、鎌倉時代再建瓦、岡山市尼島出土軒丸瓦(以上東大寺)・愛知・伊良湖瓦窯出土品(京都国立博物館)・僧房出土軒丸瓦、東塔院出土軒平瓦、西塔院地区出土泥塔、戒壇院地区出土軒平瓦、元禄時代再建瓦・軒丸瓦・軒平瓦(以上東大寺)

Ⅷ 東大寺ゆかりの彫像(本館中央室・南側)

○二月堂本尊光背、○弥勒仏坐像、○十二神将立像、○持国天立像、○多聞天立像、○阿弥陀如来坐像(以上東大寺)・○舞楽面(地久・胡飲酒・貴徳・手向山八幡宮)・○重源上人坐像(浄土寺)・○阿弥陀如来立像、○菩薩面(以上浄土寺)・○釈迦如来坐像(東大寺)・○愛染明王坐像(当館)・○地藏菩薩立像(春覚寺)・○獅子頭、文殊菩薩騎獅像(東大寺)

像、○阿弥陀如来坐像(以上東大寺)・○舞楽面(地久・胡飲酒・貴徳・手向山八幡宮)・○重源上人坐像(浄土寺)・○阿弥陀如来立像、○菩薩面(以上浄土寺)・○釈迦如来坐像(東大寺)・○愛染明王坐像(当館)・○地藏菩薩立像(春覚寺)・○獅子頭、文殊菩薩騎獅像(東大寺)

特別出陳 本館 4月14日(日)、4月20日(土) 7月7日(日)

●薬師如来立像(唐招提寺金堂)

特別出陳 西新館 4月7日(日)、4月20日(土) 7月7日(日)

●薬師三尊像(薬師寺講堂)

平常展「仏教美術の名品」

本館・西新館

【彫刻】本館 4/14 第1・2室

○銅造二月堂本尊光背・頭光、○木造多聞天立像、○木造持国天立像、○木造十二神将立像(以上東大寺)・○木造愛染明王坐像(当館)・○木造地藏菩薩立像(春覚寺)・○木造阿弥陀如来坐像(東大寺)・○木造阿弥陀如来立像、○木造重源上人坐像、○木造菩薩面(以上浄土寺)・○木造獅子頭、○木造弥勒仏坐像、木造文殊菩薩騎獅像(以上東大寺)

【考古】4/14 本館

塑像(奈良・薬師寺出土(薬師寺)、塑像(奈良・川原寺裏山出土)・奈良・明日香村教育委員会、火頭形三尊像(伝奈良・橘寺出土)・山田寺出土土埴仏、三重・夏見廃寺出土土埴仏、方形独尊坐像埴仏、方形阿弥陀三尊埴仏、方形独尊埴仏、小型独尊埴仏(以上当館)・多宝塔埴仏(個人)・○奈良・元興寺塔跡鎮壇具(元興寺)・群馬・白山古墳出土品、平瓶形骨蔵器、○出雲・荻村古墓出土品(以上当館)・○鍔銀経箱(奈良・金峯山経塚出土)・藤原師通願経(金峯山

経塚出土)・以上奈良・金峯神社、銅板経(金峯山経塚出土)・瓦経(京都・鳩ヶ峯経塚出土)・金銅水滴・銅合子(以上当館)

【絵画】西新館 4/7

○十王像(陸信忠筆)当館、○閻魔王図(長泉寺)・○釈迦八相図(大福田寺)・○仏涅槃図(長命寺)・○十六羅漢像(8幅)(宝厳寺)・○二河白道図(当館)・弥勒来迎図(個人)・○辟邪絵(神虫、理趣経曼荼羅図像、不動儀軌)・○天仏頂曼荼羅(以上当館)・○一字金輪曼荼羅(南法華寺)・○法華曼荼羅(松尾寺)・千手観音二十八部衆像(当館)・○十一面観音像(金心寺)・○文殊菩薩像(当館)・孔雀明王像(個人)・○俱利伽羅電剣二童子像・両界曼荼羅(当館)・○十二天像(地天)(西大寺)

【書跡】西新館 4/7

弘法大師二十五箇条遺告(能満院、悉曇字母母、○弘福寺牒並大和国判、海龍王経、瑜伽師地論卷第八十九(舎人国足願経)(以上当館)・大般若経卷第四百七十一(談山神社)・大威徳陀羅尼経(法隆寺一切経(当館)・○紫紙金字法華経(乘法寺)・○紫紙金字金光明最勝王経卷第二(後宇多天皇願経)(当館)・○法華経(長谷寺)・大般若経卷第五百五十七(東大寺八幡経)(当館)

【工芸】西新館 4/7

楽装束(伽婁羅、新羅墨、天平筆、黒柿両面厨子、正倉院宝庫模造、黒漆二合鞘刀子、斑犀把烏犀鞘金銅荘刀子(以上当館)・特展展示(鏡に映された神の姿)

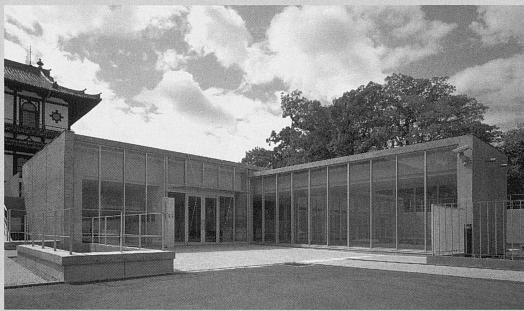
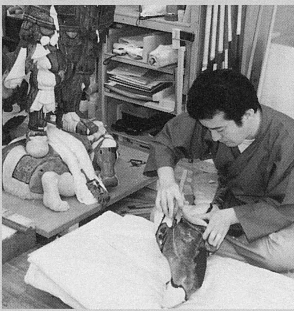
○十二尊鏡像(細見美術財団)・○阿弥陀如来鏡像、藏王権現鏡像、男神鏡像、男神対向鏡像、十一面観音懸仏、○山王十社本地懸仏、○熊野十二社権現懸仏(以上当館)

●Ⅱ国宝 ●Ⅱ重要文化財

出陳品は、都合により一部変更する場合があります。

奈良博 NEWS

奈良国立博物館 文化財保存修理所の オープン



登大路通からは、東新館の南側に、重要文化財の木造建築「仏教美術資料研究センター」がみえます。その手前側には、ガラスの新しい建物が完成しています。それが、文化財保存修理所です。長い年月を経て伝えられてきた文化財は、多かれ少なかれ損傷を生じているのが普通です。特に、木造彫刻や絵画、書跡などは脆弱な材料を用いていることが多く、修理を加えながら、その生命を保つてきました。言い換えると、文化財を後世に伝えるためには、その基盤として適切な修理を行う必要があるということになります。

奈良の地は京都と並んで貴重な文化財が多く、特に彫刻が集中していますが、奈良にはそのための十分な施設がありませんでした。奈良で文化財の修理ができればというのが、関係各面の念願だったのです。

このような現状をふまえ、文化財の保存と公開を任務とする奈良国立博物館は、文化財保存修理所を開所することになりました。当館では、国民の財産である文化財の保存修理に貢献し、またその成果を展示などにも反映させることにより、博物館活動をより充実させていく予定です。

●公開講座●

4月27日(土) 東大寺の歴史	大阪市立大学教授	栄原 永遠男
5月18日(土) 東大寺の教学－華嚴の教え－	東大寺管長	橋本 聖圓
6月 1日(土) 東大寺の絵画	学芸課長	梶谷 亮治
6月15日(土) 東大寺の建造物	仏教美術協会理事長	鈴木 嘉吉
6月29日(土) 大仏の変遷	名古屋大学教授	宮治 昭
7月 6日(土) 東大寺の彫像	館長	鷺塚 泰光

※13時30分より15時まで。講堂にて。聴講は無料。
ただし定員は200名。

●作品解説●

4月24日(水) 天平の塑像	仏教美術研究室長	松浦 正昭
5月 1日(水) 法華堂根本曼荼羅	美術室長	中島 博
5月 8日(水) 正倉院と東大寺の工芸	工芸室長	内藤 榮
5月15日(水) 東大寺の金堂鎮壇具と考古遺品	仏教美術資料研究センター長	井口 喜晴
5月22日(水) 東大寺の復興と工芸	研究員	伊東 哲夫
5月29日(水) 華嚴五十五所絵	研究員	谷口 耕生
6月 5日(水) 聖武天皇・重源上人・公慶上人	資料管理研究室長	西山 厚
6月12日(水) 盧舍那仏の造形	研究員	稲本 泰生
6月26日(水) 僧形八幡神像について	学芸課長	梶谷 亮治
7月 3日(水) 東大寺の鎌倉復興造像	企画室長	岩田 茂樹

※ いずれも14時より。講堂にて。聴講無料。ただし定員は200名。

●「親と子の文化財教室」受講者募集●

5月11日(土) 奈良時代と平城京(現地見学)	教育室長	宮田康和
6月 8日(土) 特別展「東大寺のすべて」解説ボランティア		
7月13日(土) 奈良時代の寺院	仏教美術資料研究センター長	井口喜晴
8月10日(土) 奈良時代の彫刻	仏教美術研究室長	松浦正昭

※小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。今年度は『奈良時代の歴史と美術』をテーマに勉強します。
※はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日(いくつでもかまいません)を必ず記入して、〔〒630-8213奈良市登大路町50 奈良国立博物館 教育室〕まで、お申し込みください。(FAX可)
※参加費は無料ですが、現地見学の際は実費が必要です。定員は100名(先着順)。当館講堂において10時から12時まで行います。

●ボランティアによる解説(ご案内)●

ボランティアによる解説は、特別展「東大寺のすべて」の期間中、講堂にて開館日の10時30分～13時30分～の2回実施の予定です(各回40分程度、講座などがない時のみ)。なお、平常展期間中は展示室で行います。

●夏季講座●

本年も夏季講座を開催する予定です。テーマ・日程などの詳細は、教育室までお問い合わせください。

●平成14年4・5・6月の展覧会日程●

	4月	5月	6月
本 館	平常展(～4/14) 休館(4/16～19)	東大寺のすべて (4/20～7/7)	
西 新 館	平常展(～4/7) 休館(4/9～19)	東大寺のすべて (4/20～7/7)	
東 新 館	休館(～4/19)	東大寺のすべて (4/20～7/7)	

展示品の 見どころ

国宝 東大寺金堂鎮壇具

とうだいじこんどうちんだんぐ

奈良時代 東大寺蔵
(右上) 銀製鍍金狩獵文小壺
総高 4.4 cm
(右下) 銀製鍍金蟬形鐺子
座金長 8.1 cm

明治40年～41年にかけて、東大寺大仏殿の修理工事の際に足場の支柱を立てる必要から、大仏殿須弥壇上を壺掘りしたところ、思いがけなく多数の宝物が出土した。それが、この金堂鎮壇具と呼ばれている品々である。それらは、大仏鑄造後、金堂（大仏殿）の完成までの間に納められた可能性が強く、東大寺創建当初の遺品とみられる。正倉院宝物と共に天平文化の精粹を示す貴重な文物でもある。

写真の上は、そのうちに含まれる、銀製鍍金の小壺である。身の外面には、二方に、騎馬人物が鹿を追い狩獵する図が刻され、その間に山岳文や草木文様が配されている。狩獵文は、西方的な要素の強い文様としてよく知られる。この銀製小壺には、大小2箇の水晶製合子が納められ、その中にはさらに水晶玉や真珠玉などが納められていたようである。

写真下は、銀製鍍金鐺子、すなわち現在の錠前に当たる。蟬形をした珍しい形状の海老錠（鐺子）と、宝相華唐草文を透彫りした座金からなる。上下に分かれた座金具のそれぞれに足金具を1本ずつ立て、それを蟬の鐺子で留める構造になっている。蟬の眼の間に匙（かぎ）の挿入孔がある。これと同時に出土したものとしては、草花文を金銀泥で描いた漆皮箱があり、この鐺子はその漆皮箱に取りつけられていた錠前と推測される。

今回の特別展「東大寺のすべて」では、普段は展示することの少ない、上記の漆皮箱もふくめ、金堂鎮壇具を一堂に展示する予定なので、是非じっくりとご覧いただきたい。

（考古室 高橋照彦）



■開館時間=9時30分～17時（4月26日〔金〕より毎週金曜日は19時まで）

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日=月曜日（ただし4月29日、5月6日は開館、5月7日〔火〕は休館。）

■観覧料金

平常展		一般	大学・高校生
当日		420円	130円
団体		210円	70円

特別展		一般	大学・高校生	中学・小学生
当日		1300円	900円	600円
前売・団体		1100円	700円	400円

※団体は責任者が引率する20名以上

※「東大寺のすべて」展の前売り券は、奈良博窓口（4月14日まで）もしくは近畿日本ツーリスト、近鉄・JR西日本・JR東海の主要駅、チケットぴあ（Pコード467-509）、ローソンチケット（Lコード51626）ほか主要プレイガイドで発売中。

※「東大寺のすべて」開催中に本館のみ観覧の方は、平常料金で入館できます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の企画室にお申し込み下さい。



奈良国立博物館
Nara National Museum